

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立音別小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 太 田 恭 司
- 4 キ ー ワ ー ド：地域と共に歩む学校教育

1 はじめに

本校のある釧路市音別町地区は平成17年に釧路市と合併し、釧路市街地と地理的に分離した、いわゆる飛び地となっている地域である。豊かな自然に囲まれており、農産物では蕎麦の栽培、キクイモの生産などが行われている。また、大塚製薬の釧路工場があり豊かな水源を利用して清涼飲料水などが生産されている。

道央と釧路をつなぐ国道38号沿いにあるが、道東道延伸により音別町内の交通量が減り、人口減少も進んでいる。かつては多くあった小学校も現在は本校のみとなり、令和8年度に義務教育学校として新たなスタートを切る予定である。

2 義務教育学校へ

義務教育学校化に向けては、当初令和9年開校予定であったが、地域協議会やPTAなどが開校時期の前倒しを求める要望書を提出し、1年前倒しの令和8年度に開校することとなった。要望の中には「複式授業の解消」「学校行事の活性化」「地域を活かした教育活動」などが盛り込まれていた。

これを受けて音別小と音別中は9年間の教育課程の作成に着手し、目指す子どもの姿を「ふるさと音別を愛し、たくましく生き抜く子ども」とした。また、郷土愛をどのように育んでいくかを含めたキャリア教育系統表を作成している。

【キャリア教育系統表（一部抜粋）】

	1・2年	3・4年	5・6年	中1年（7年生）
人との関わり	- いつでも誰にでも、挨拶や返事を元気づけることができる。 - 自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができる。 - 静かに話を聞くことができる。 - 友達と仲良く遊び、助け合うことができる。	- 相手の思いを最後まで聞くことができる。 - ルールを守りながら、友達と協力して学習や活動に取り組むことができる。	- その場に応じた挨拶や返事をはきはきとすることができる。 - 自分の考えや気持ちを整理して、相手に分かりやすく伝えることができる。 - 自分と異なる意見も理解しつつ、話し合いに積極的に取り組むことができる。	- 相手や場に応じた適切な言葉の使い方ができる。 - 集団における自分の役割（チームワーク）を理解することができる。
課題克服	- 調べたいことや知りたいことを見付けることができる。 - 活動に積極的に取り組むことができる。	- 調べたいことや知りたいことについて、自分から先生に質問したり、本などで粘り強く調べたりすることができる。 - 活動の手順を理解して、積極的に取り組むことができる。	- 課題解決に必要な情報を様々な方法で探し、整理することができる。 - 活動するとき、計画を立てて進めたり、途中でやり方を工夫したり、見直したりすることができる。	- 学習や生活をする上で様々な課題を発見することができる。 - 適切な計画を立てて課題を処理し、解決できる。
未来に向けて	- 学校や家で、進んで勉強や運動、手伝いに取り組むことができる。 - 自分がやりたいことを積極的に取り組むことができる。	- 学習や係、当番活動の大切さや楽しさを感じることができる。 - 自分がやりたいことから目標を決めて挑戦することができる。	- 学ぶことや人の役に立つことのよさを感じることができる。 - 自分の目標に向かって、生活や勉強の仕方を工夫できる。	「学ぶこと・働くこと」の意義を理解することができる。 - 自らの将来について考えるために、様々な情報を収集できる。
郷土愛		音別の福祉と自然について、知っていることを話すことができる。	音別の福祉・自然・産業・歴史について、知っていることを話すことができる。	音別のよさを知らない人にも分かりやすく伝えることができる。

3 地域と共に歩む学校教育

これまで継続して行われてきた地域学習を持続可能な教育課程として再編成するため、コミュニティ・スクール協議会委員にキャリア系統表を提示しながら、連携・協力について依頼し教育活動を推進した。

【令和6年度 主な地域との連携活動】

(1) 自転車交通安全

(対象：全校児童／連携：地域の自転車販売店 交通安全ボランティア 駐在所 他)



4月に実施した自転車の乗り方講習会の講師を地元の自転車販売店のスタッフが行った。地元販売店の強みを生かし、危険な箇所や気を付ける時間帯を具体的に指導していただいた。

また、5月下旬に交通安全の願いを込め、音別認定こども園と音別中学校と協力し「ひまわりの絆プロジェクト」を実施している。

(2) 落まつり音頭講習会

(対象：全校児童／連携：落まつり音頭保存会)

6月に行われる運動会のプログラムに郷土芸能である「落まつり音頭」を設定し、事前に保存会の方々に指導してもらった。運動会当日は踊りを知っている保護者、地域の方々、幼児や高校生も参加し、地域が一体となって踊ることができた。



(3) 落狩り体験

(対象5・6年生／連携：北のピーナス発見隊)

6月に町おこし有志グループである「北のピーナス発見隊」の協力により音別町の名産品である蕎麦の収穫体験を実施した。蕎麦栽培についてはインターネット上にも情報が少ないことから、事前に質問事項を準備し、インタビュー活動も行った。

初めて体験する児童が多く、地元産業について理解を深めることができた。

(4) 街頭交通安全運動

(対象：全校児童／連携：音別町行政センター 他)

7月に全校児童が国道38号線沿いに立ち、通行する乗用車やトラックに対して交通安全を呼びかけた。旗をふる児童に対してスピードを落として手を振るドライバーも多くいた。



4 おわりに

12月に行われたコミュニティ・スクール協議会での熟議においてはそれぞれの立場から様々な考えが出され、今後も地域と学校で協働して教育活動を推進していくことが重要であることが再確認された。

今後は地域の教育資源を総合的な学習の時間の教育課程に組み込み、地域との連携・協力体制を確立し、魅力ある教育活動の継続に努めていきたい。